

樺太・豊原のスキー場

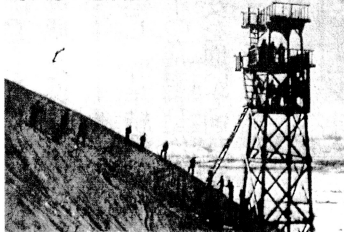
藻岩レルヒ会会長 原田 廣記（恵須取）

日本にはじめてスキー技術が伝えられたのは一九一二年（明治四十四年）新潟県高田（現上越市）オーストリアの軍人テオドール・エドラー・フォン・レルヒ少佐（明治四十五年北海道旭川では中佐）ですが、樺太では一九二二年（明治四十四年）二月、既に第一回樺太島技大運動会（スキー大会）が豊原旧市街東練兵場で開催されている。（樺太日日新聞）

写真①：樺太スキー練習場



写真②：豊原旭ヶ丘ジャンプ競技



てこれを求めて持ち帰り研究をして「冬の樺太島技大運動会」（大会長は平岡定太郎長官）につながる。翌四十五年には第二回大会と続く。また、スキー

熱が高まり「豊原スキー倶楽部」が設立された。「樺太スキー練習場は一九二三年（大正二年）樺太庁舎正面東端より正門外通路に貫通する、斜面延長二五〇尺（約七十六m）幅四十尺（約十二m）にわたる大滑走場を設けつつあるが、本日竣工する見込みなり」（樺太日日新聞大正二

年三月十八日付）写真①

「樺太庁前庭にスキー倶楽部の設備中なりし人造スキー練習斜面は、此の程全く完成を見るに至りたるより、此処に於いて壮快なるスキー技術を試みつつあり」（樺太日日新聞大正三年一月二十四日付）

樺太島技大運動会は第三回までは隆盛期で、走る競技（ノルディックスキー）が中心であったが、第四回からは旭川第七師団でレルヒ中佐から指導を受けた樺太守備隊の日澤少尉が中心になり、回転競技（アルペンスキー）に移行して、ノルディックスキーとアルペンスキーが競うようになった。また、当時はストックが一本杖のものが主流であった。大正四年には、神社山にスキーコースが出来てからアルペンスキーが盛んになってくる。

樺太中央スキー倶楽部が、大正八年にはストックは二本になり、大会出場者は二本を持った選手が上位を占めるようになった。神社山スキー場は、豊原市街地より東に約十町（約四km）の樺太神社の鎮座する旭ヶ丘・帯の地で「旭ヶ丘スキー場」と呼んでいた。海拔四〇〇mの眺望絶景の地で、樺太中央スキー倶楽部は、昭和四年、五年にわたり数万円の工費を投じてここに東洋一を誇る総合スキー場を設立する。写真②

ローチ全長一〇〇m・最急角度三十度・シャントエ角度下向七度・高さ二・五m・着地斜面全長八十m・最急部二十七度・ユーバカンガ六十五m・アウトランド一〇〇m・昇り斜面あり・審判台は三層建にして、距離表示板及び拡声器の設備あり・ヒュッテ観覧席は二万人を収容し得る。また練習用シャントエもあった。ヒュッテは赤レンガ造りの三階建てのスマートなもので、大きな暖炉が中心にあり、眼下には豊原の町が基盤の目のように広がり、南には亜庭湾を望むことが出来る。

参考資料

◆樺太日日新聞◆樺太庁施政三十年史◆昭和十二年豊原市要覧◆樺太豊原会「鈴谷」◆樺太・遠景・近景（著者 松村孝雄氏）

軍服、はかま 一本杖スキー 藻岩山



滑降する藻岩レルヒ会の会員たち（13日、札幌市南区で）

道内にスキーが伝えられた約一〇〇年前の技法「一本杖スキー」が13日、札幌「藻岩レルヒ会」（原田広記会）の会員らが当時の衣装

や木製のスキー板で、華麗に隊列を組んで滑った。藻岩山は、道内にスキーを伝えた旧オーストリア・ハンガリー帝国の軍人レルヒ（1869～1945年）の指導を受けた教え子らが1912年（明治45年）3月、スキー登山をしたとされている。「藻岩レルヒ会」は85年から毎年、同地で一本杖スキーを紹介している。この日は、会員17人が軍服や女学生の羽織はかま姿などの衣装を身にまとい、約2分の竹ざおの杖を斜面に突き立てながらゆっくりと滑走。ジャンプやフォーメーションを組んでますぐ滑り降りる制動直滑降など、明治後期のスキーを再現した。女学生姿で滑った同市内の小学5年、木村羽那さん（11）は「普段のスキーと違うので新鮮な気持ち。もっと女学生役が増えるといいな」と満喫した様子だった。

写真…中央が原田廣記氏
平成28年3月14日読売新聞に掲載された記事を転載。

設備は競技用シャントエ（ジャンプ台）・アプ